

令和3年度 学校経営計画に対する中間報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、タブレット等のICT機器を日常の学習ツールとして活用し、個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びを一体的に充実させて授業改善を実践することで、学びの質を向上させるとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間3回以上取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	教員対象に 7月にアンケート調査 3回以上 3人(10%) 1回 13人(43%) 0回 14人(47%) 評価：D	タブレット等を活用した授業改善(互観授業や公開授業、研究授業等)の取り組みを行ってきたが、3回以上実施した人数が3名(10%)と低調な結果となった。 新規にタブレットが導入されICT機器の使い方の理解に時間がかかり満足のいく実施率となっていない。 2学期以降は先進的に取り組んでいる授業の参観や公開・研究授業の実施に向けて日程調整等に取り組んでいきたい。
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭等での自学自習する習慣を身につけさせる。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 63% B: 34% C: 3% D: 0% 評価：A・B合わせて 97%	A・B合わせた評価は97%となった。判定基準の80%を上回り、前年度同期(90%)と同様に高い結果となった。今年度は行事等が通常に戻り、資格取得等の学習に前向きに取り組んでいることが伺える。しかし、学習状況アンケートでは試験期間以外の家庭学習に「ほとんどしなかった」と回答した生徒が32%とかなり多い。今後も資格取得も含めた家庭学習の習慣化が成され、学力向上につながるよう働きかけを継続していきたい。
	③ 毎月、図書便りを発行し全教員の「お薦めの本」を紹介するとともに、「読書週間」などの読書運動を全校的にを行い、読書の習慣を身につけさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 25% B: 24% C: 24% D: 27% 評価：A・Bあわせて 49%	A・B合わせた評価は49%(昨年度51%)と、判定基準の50%を下回った。1学期に実施した読書週間は1年生のみだったので、12月のアンケートでは評価の数値は上がると予想される。しかし、より多くの生徒に対して図書館の利用促進を図るために、2学期の新学期図書到着に合わせ、主に国語科と連携して、クラスごとに図書館利用の機会を設けることを計画している。
	④ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人以上 C 40人以上 D 40人未満	前期(7月)の認定者数を検証 前期認定者数 9人 評価：D	前期認定者数はゴールド取得者が4名、シルバー取得者が5名であった。資格試験も予定通り実施されており、現在のところ希望者は受験機会が得られている。技能検定や電気工士をはじめ生徒の取得意欲も高く順調に推移している。
	⑤ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促すとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種の進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 57% B: 40% C: 3% D: 0% 評価：A・Bあわせて 97%	A・B合わせた評価は97%となった。判定基準の90%を上回り、前年度同期(96%)と同様に高い結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響で県の企業ガイダンスが動画配信となったが、大きな影響もなく進路決定に向けて動いている。 求人(7月末現在806件)は、本校生徒が希望する地元企業を中心に多くの求人を頂いている。10月からの就職・進学試験に向けて適切な進路指導を心がけたい。また、2年生対象の「インターンシップ」「地元企業を知る会」等の行事を通して進路に対する意識を高めていきたい。
	⑥ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図るとともに、授業でコミュニケーション力をつけさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった 1回目の就職試験における内定率が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 57% B: 38% C: 3% D: 2% 評価：A・Bあわせて 95%	A・B合わせた評価は95%となった。判定基準の80%を上回り、前年度同期(96%)と同様に高い結果となった。1・2年生の朝学習では基礎学習を中心に実施、3年生は進路別に問題集などに取り組んでいる。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もなく運営できている。今後、就職・進学試験に向けた面接指導等の充実に全教員が協力して取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		○ICTを使った授業が行われているが、言葉でのコミュニケーションの力が衰えないか心配である。人前で発表するような機会を持つことも重要だ。 ○自発的な学習を促すためには、宿題を出すことより、資格取得など、明確な目標を持たせることの方が効果なのではないか。 ○コロナ対策で大変かと思うが、もうすぐ就職試験が始まるので、進路についてもしっかりと指導してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○今後も、「ICTの活用」と「対面でのコミュニケーション」の両立に努めていきたい。特に後者についてはコロナ禍での制約があるが、「規範意識週間」など、人前で自分の考えを発表する機会を今後も大事にしていきたい。 ○資格や検定の意義をあらためて確認するなどして、生徒が自律的に学習に向かう態度を養っていきたい。 ○全生徒の進路希望を実現するため、面接指導などをきめ細やかに行っていきたい。		

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新入大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰闘賞を獲得する。	県高校総体の総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	県総体6月末集計結果 点 男子 点 位 女子 点 位 評価:	秋の会議で点数がわかるため、現在集計結果は得られていない。 運動部加入率は86.1%で、前年度同期(86.1%)と同様に高い結果となった。	
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	文化部加入生徒対象に7月にアンケート調査 A: 56% B: 40% C: 4% D: 0% 評価: A・B合わせて 96%	生徒対象に7月にアンケート調査 A: 53% B: 44% C: 2% D: 1% 評価: A・B合わせて 97%	A・B合わせた評価は96%となった。判定基準の80%を上回り、前年度同期(99%)と同様に高い結果となった。 新型コロナウイルス感染症の影響で、今年も以前のような活動ができない部もあるが、生徒は前向きに取り組んでいる。また、現状に満足していない生徒も満足できるような活動を生徒とともに考えていきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に7月にアンケート調査 A: 78% B: 22% C: 0% D: 0% 評価: A・B合わせて 100%	A・B合わせた評価は97%となった。判定基準の80%を上回り、前年度同期(95%)と同様に高い結果となった。 今年も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、以前の行事に近い内容が行えるよう工夫してきた結果だと考えられる。伝統ある行事をなくさないよう、より生徒も満足して参加できるような行事を目指す。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけや観察を行い、生徒との相互理解を深め、規範意識といじめ防止の意識を高める。	保健だよりや掲示物、集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に7月にアンケート調査 A: 47% B: 45% C: 7% D: 1% 評価: A・B合わせて 92%	A・B合わせた評価は100%となった。判定基準の90%を大きく上回った。「朝の挨拶運動」や「校内巡視」等を通して、「通学自転車の施錠」や「校内におけるスマートフォン(携帯電話)の使用禁止」等の指導によって、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。 後期も、前期の結果に慢心することなく教職員・生徒会・生徒に呼びかけ、行動が変容するよう工夫していきたい。
	⑤ 保健だよりや掲示物、集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に7月にアンケート調査 A: 67% B: 30% C: 3% D: 0% 評価: A・B合わせて 97%	生徒対象に7月にアンケート調査 A: 57% B: 38% C: 4% D: 1% 評価: A・B合わせて 95%	A・B合わせた評価は92%と前年度同期(94%)と比較して2%減少した。判定基準の80%を上回るが、特にAの生徒の割合が前年度の59%から12%減少し、新型コロナウイルス感染症対策への意識の低下が懸念される。夏休み中に新型コロナウイルスワクチン接種が開始されていることをチャンスととらえ、2学期以降、保健だよりや掲示物、羽工祭等で生徒への働きかけを積極的に行いたい。また、毎朝の検温、手指消毒や手洗い、マスクの着用等の丁寧な指導を継続して行い、生徒の意識の向上につながるよう働きかけていきたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献することの大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校内外での一日一善運動を推奨する。	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒対象に7月にアンケート調査 A: 67% B: 30% C: 3% D: 0% 評価: A・B合わせて 97%	A・B合わせた評価は97%となった。前年度同期(96%)と同じ程度の高い結果となった。判定基準の85%を上回った。 毎日取り組んでいる「一日一善運動」に加えて、総体期間中には海岸清掃活動を行うこともできた。清掃後の海岸の美しさやきれいに分別されたゴミで、生徒が真剣に取り組んだことがうかがえ、社会貢献の大切さを十分理解していることが確認できる。	
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。さらに、組織的な業務の平準化を進める。	各分掌内で主管する業務の見直しを行い、組織的な業務の平準化を進めることに A 十分努力した。 B ある程度努力した。 C あまり努力しなかった。 D 努力しなかった。	教員対象に7月にアンケート調査 A: 19% B: 73% C: 8% D: 0% 評価: A・B合わせて 92%	A・B合わせた評価は95%となった。前年度同期(95%)と同様に高い結果となった。判定基準の70%を上回った。 今後も保健指導課の清掃活動や生徒会課の一日一善運動に加えて、生徒指導課の規範意識向上の取組等とも関連させながら、環境保全とともに環境美化について、ポスター掲示等で啓発活動を行い、生徒の意識高揚と実践力を培ってきたい。
4 教職員が相互に業務を点検し、組織的に業務の平準化を進め、働き方改革を推進する。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。さらに、組織的な業務の平準化を進める。	各分掌内で主管する業務の見直しを行い、組織的な業務の平準化を進めることに A 十分努力した。 B ある程度努力した。 C あまり努力しなかった。 D 努力しなかった。	教員対象に7月にアンケート調査 A: 19% B: 73% C: 8% D: 0% 評価: A・B合わせて 92%	A・B合わせた評価は92%となった。前年度同期(86%)よりも高くなり、判定基準の70%を上回っている。働き方改革を進めていく上で、業務の見直しや作業の効率化を図ることは必要である。今後も各分掌内において協議をするとともに、多忙化改善に向けた取組を進めていきたい。特に、業務の平準化と職員の健康管理を推進して、働き方改革を進めていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		○学校がコロナ感染症の予防に細心の注意を払いながら学習活動や生徒会活動を行っていることが十分に伝わった。その一方、街中ではマスクを着けないで会話している生徒もいる。 ○学校外でも感染症対策を行うことの必要性を指導してほしい。 ○武道場の屋根が錆びているなど、建物の老朽化が見られる。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○感染症対策が「学校の中」だけのことになっては意味がない。生徒がいかなる場面においても感染症予防に努めることができるよう、しっかりと指導していきたい。 ○校舎については、昨年度に続き来年度も大規模な改修工事が予定されており、順次対応していくこととなっている。			